

光化学オキシダント植物影響作業会合における検討結果

光化学オキシダント植物影響作業会合において、以下検討を行った。

- 光化学オキシダントの植物影響について、環境基準の設定にあたり定量評価が可能と考えられる植物影響の考え方、定量評価に資する研究の条件の案について議論した。
- これまでに収集、整理してきた知見について、その影響の内容を「可視障害」、「成分」、「光合成パラメーター」、「成長・収量」、「その他」に大きく分類し、データの充実状況から「成長・収量」について、定量評価が可能か検討した。
- 「成長・収量」について、更に複数の研究において比較可能な植物種やエンドポイントについて整理することが望ましいと考え、農作物はイネ、ハツカダイコン、コマツナ、樹木はブナ、カラマツ、スダジイ、アカマツ、ケヤキ、スギを対象とすることとした。
- 条件を満たす文献を一覧表に整理した。
- 整理した結果に基づき、定量評価が可能と思われる植物種又は品種、エンドポイント（「個体乾重量」等の評価項目）、オゾン曝露評価指標（日中 8 時間平均濃度や AOT40 等）について検討した。

光化学オキシダント植物影響作業会合 委員名簿

伊豆田 猛	東京農工大学 大学院農学研究院 物質循環環境科学部門 教授
山口 真弘	長崎大学 総合生産科学域 准教授
米倉 哲志	埼玉県環境科学国際センター 自然環境担当 担当部長
渡辺 誠	東京農工大学 大学院農学研究院 物質循環環境科学部門 准教授